

第2回 のむら復興まちづくりデザインワークショップを開催しました！

■第2回ワークショップの開催

西予市復興まちづくり計画に基づき、野村地域の復興まちづくりについて、市民の皆様と話し合いを深めながら検討を進める場として、「第2回 のむら復興まちづくりデザインワークショップ」を開催しました。

愛媛大学 社会共創学部 松村 暢彦教授の進行のもと、愛媛大学や東京大学の学生の皆様の協力を得て、参加者の皆様から様々なご意見をいただきました。

第2回ワークショップでは、第1回に参加者の皆様から多くの意見をいただいた4つのテーマを設定し、それぞれのテーマごとに「実現したい暮らし」、「整備や活動のアイデア」、「気になること、課題になりそうなこと」についてご意見をいただきました。

■ワークショップの開催結果

ワークショップの開催結果として、テーマごとにいただいた意見の一例を示します。

■テーマ①：脇川とその周辺の整備・活用

【実現したい暮らし】

- ・水とふれあえる空間にしたい。

【整備や活用のアイデア】

- ・川の中をデザインして歩いて渡れるようにする。
- ・いもたきやBBQ等のイベントで活用する。

【気になること・課題になりそうなこと】

- ・予算や管理の問題が気になる。
- ・集客数や宿泊施設は足りるのか。

【実現したい暮らし】

- ・安全で、安心できる生活空間にしたい。

【整備や活用のアイデア】

- ・河川堤防の整備と放流時の安全対策をする。
- ・多くの空き地を利用し雨庭を整備する。

【気になること・課題になりそうなこと】

- ・ダム放流時の河川状況は大丈夫なのか。
- ・雨庭は個人負担の代わりに税金免除できるのか。

■テーマ③：野村の文化の継承と観光

【実現したい暮らし】

- ・乙亥相撲をずっと続けていきたい。

【整備や活用のアイデア】

- ・メディアを活用し、外部へ発信する。
- ・相撲関連のグッズを作る。

【気になること・課題になりそうなこと】

- ・情報発信のあり方を考える必要がある。
- ・乙亥会館の復興。
- ・昔のことを伝えていける人が減少している。

【実現したい暮らし】

- ・イベントや行事の際に泊まれる場所がほしい。

【整備や活用のアイデア】

- ・使用後の仮設住宅の活用。
- ・支所前に入浴施設と宿泊施設を整備する。

【気になること・課題になりそうなこと】

- ・水回りの整備に大きな費用がかかる。
- ・場所と許可の問題。
- ・誰がやるのか。

【第2回 のむら復興まちづくりデザインワークショップの開催概要】

日時：令和元年6月24日(月) 19:00～

会場：野村公民館

主催：西予市

協力：愛媛大学、東京大学復興デザイン研究体

参加者：30名（野村地区自治会、社会教育団体等の公的団体代表者、西予市内在住者 等）

進行補助：愛媛大学、東京大学の学生

主な内容：

○第1回野村復興まちづくりデザインワークショップの振り返り

○グループワーク

テーマ① 脇川（宇和川）とその周辺の整備・活用

テーマ② 商店街の活性化

テーマ③ 野村の文化の継承と観光

テーマ④ 日常生活サービスの維持・更新

○グループワークの発表

○次回開催日（7月23日（月）19:00～）



全体の様子



グループワーク

■テーマ②：商店街の活性化

【実現したい暮らし】

- ・多様な種類のお店が並ぶ商店街にしたい。

【整備や活用のアイデア】

- ・小中高生を対象とした経営の学習会を開催する。
- ・野村産の食物を活かした食品でアピールする。

【気になること・課題になりそうなこと】

- ・駐車場の整備が必要。
- ・既存の店舗が後継者不足である。（高齢化）

【実現したい暮らし】

- ・いつでも立ち寄れる空間がほしい。

【整備や活用のアイデア】

- ・空き家・空き地を活用する。
- ・集える場所でみんなが食事ができる環境にする。

【気になること・課題になりそうなこと】

- ・経費を支援する方法が必要。（水回りなど）
- ・高齢者等の移手段の問題。

■テーマ④：日常生活サービスの維持・更新

【実現したい暮らし】

- ・公共施設が集約したまちにしたい。

【整備や活用のアイデア】

- ・庁舎へ公共施設は集約する。（複合化）
- ・バスなどの交通の便を整える。

【気になること・課題になりそうなこと】

- ・大きな財源が求められる。
- ・新しい支所の設計の見直しが必要。
- ・お年寄りの足（移手段）がない。

【実現したい暮らし】

- ・多世代交流が盛んな暮らしにしたい。

【整備や活用のアイデア】

- ・健康づくりのできるスポーツジムの整備。
- ・“子ども食堂”をはじめ。

【気になること・課題になりそうなこと】

- ・色々な健康体操教室の維持。
- ・土地の確保が必要。
- ・娯楽が少ない。（若い人の確保）

第3回 のむら復興まちづくりデザインワークショップを開催しました！

■第3回ワークショップの開催

第3回ワークショップでは、第2回に設定した4つのテーマのうち、「肱川とその周辺の整備・活用」をとりあげ、具体的な過ごし方や使い方のアイデアについてご意見をいただきました。



愛媛大学 松村教授
による主旨説明



東京大学 萩原特任助教
による事例紹介



グループワーク



良いと思う提案にシールを
貼り付けて投票

【第3回 のむら復興まちづくりデザインワークショップの開催概要】

- 日時：令和元年7月23日(火) 19:00～
- 会場：野村公民館
- 主催：西予市
- 協力：愛媛大学、東京大学復興デザイン研究体
- 参加者：21名（野村地区自治会、社会教育団体等の公的団体代表者、西予市内在住者 等）
- 進行補助：愛媛大学、東京大学の学生
- 主な内容：
 - 第1回及び第2回野村復興まちづくりデザインワークショップの振り返り
 - 事例紹介
 - グループワーク
 - テーマ① 肱川（宇和川）とその周辺の整備・活用
 - ✓ 具体的な意見の抽出
 - ✓ 図面への落とし込み
 - グループワークの発表
 - ポイントシールの貼り付け
 - 次回開催日（8月22日（木）19:00～、場所：西予市野城総合福祉協会）

■ワークショップの開催結果

ワークショップの開催結果として、グループごとにいただいた意見の一例を示します。

【1班】

■ 1班で出た意見の一例

- ・噴水のような親水空間。（水は怖くないということ伝える。）
- ・災害時に逃げられる道を整備する。
- ・左岸にイベント（音楽、映画など）ができるステージスクリーンで映画も見れる場所。
- ・災害があったことを伝える石を設置する。（記念碑）
- ・ベンチを置いて桜を見れるようにしたい。
- ・左岸にスポーツ施設を整備する。

【2班】

■ 2班で出た意見の一例

- ・右岸は自然公園、左岸は人が集う場とする。
- ・ドッグランやヤギ、ウサギなど動物と触れ合うことのできる場所。
- ・これからの災害を前提として、川の外を水に浸かってもよい空間にする。
- ・街灯を設置する。
- ・木や竹でダム放流の合図が見えないので、整備する。
- ・乙亥会館に行く時に使える駐車場を整備する。
- ・沈下橋をつくる。

【3班】

■ 3班で出た意見の一例

- ・右岸に親水空間（水の町としてのモチーフがある公園）や憩いの公園を整備する。
- ・消防道路を利用して親水空間とする。
- ・公園や堤防を整備して、花（桜）を植える。
- ・体育館の代わりとなり、バドミントンや卓球ができる場所を整備する。
- ・川沿いをジョギングや散歩ができるように遊歩道を整備する。（街灯も設置）
- ・堤防整備+道幅拡大（車・歩道）

【4班】

■ 4班で出た意見の一例

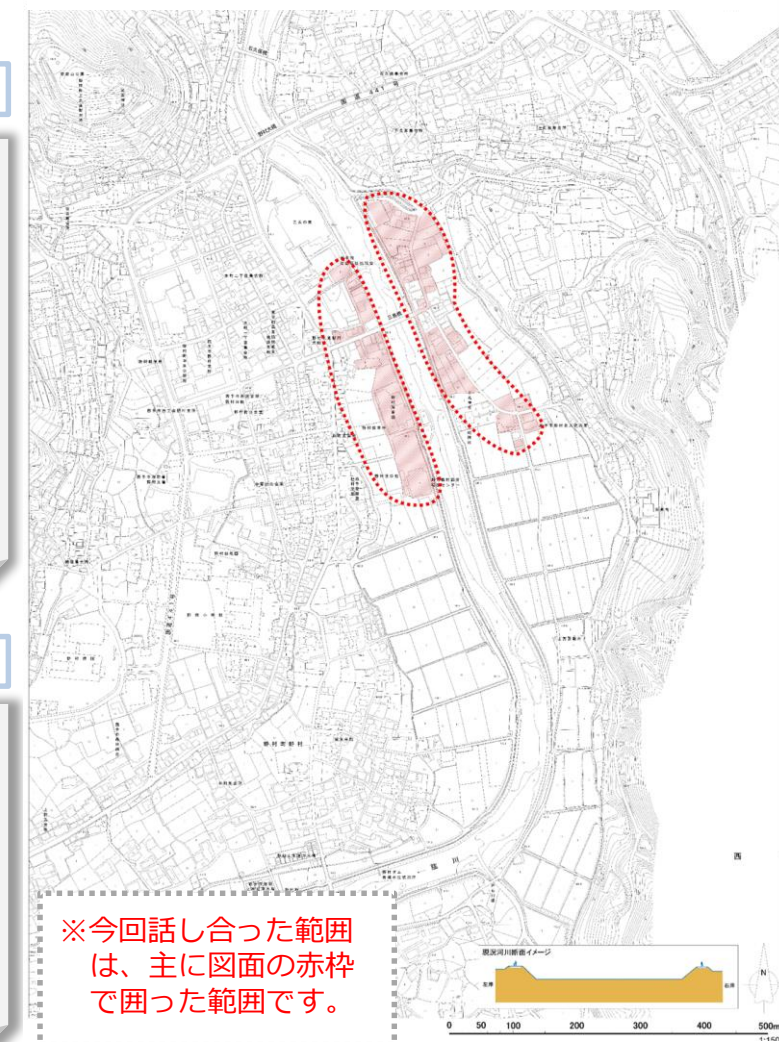
- ・右岸の北側に公園を整備する。（花を植える）
- ・風通しの良い右岸側では、キャンプ場を整備する。（場内には親水空間を設置）
- ・乙亥会館と公園を行き来する橋を設置する。
- ・遊歩道を整備する。（街灯を設置）
- ・左岸には、スポーツ施設を整備する。（ゲートボールや大会で使用できる施設）
- ・右岸の南側に集客しやすい農園を整備する。（住民が入りやすい静かなイメージ）

【5班】

■ 5班で出た意見の一例

- ・三島町 下流部と氏宮川との三角部分に、親水公園を一段低くして整備する。氏宮川上流より水を引き、タイドプールの水を浄化できる。
- ・自転車で回れる川沿いとする。（石久保橋～新天新橋）
- ・沈下橋を設置する。
- ・運動やドローンの練習場等、多目的な用途で使用できるグラウンドを整備する。
- ・花見ができるように、川沿いに花（桜）を植える。

WS時に使用した図面



※今回話し合った範囲は、主に図面の赤枠で囲った範囲です。